

オガサワラカワラヒワに関する島外への普及啓発の取り組み

川上 和人^{1*}

Awareness-raising activities about the Ogasawara Greenfinch to the outside of the Ogasawara Islands

Kazuto KAWAKAMI^{1*}

1. 森林総合研究所（〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1）

Forestry and Forest Products Research Institute, 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687, Japan.

* kazzto@ffpri.affrc.go.jp (author for correspondence)

要旨

小笠原諸島固有の鳥類であるオガサワラカワラヒワは近年激減しており、近い将来の絶滅が心配されている。この鳥の保全を進めるにあたっては、多くの国民の理解が必要である。しかし、本種の知名度は低く普及啓発が必要とされている。そこで、この鳥の持つ価値や現状を全国的に共有することを目的に、学会やインターネット、マスメディアなどを介した普及啓発活動が行われてきた。これらの活動により、これまでに比べれば本種の認知度は高まってきている。ただし、その知名度はまだ高いとは言えず、今後も継続的に活動することが不可欠である。

キーワード

Chloris kittlitzi、認知、保全、マスメディア

1. はじめに

オガサワラカワラヒワ *Chloris kittlitzi* はアトリ科に属する小笠原諸島固有の鳥類である。この鳥は近年激減しており、近い将来の絶滅が心配されている（川上・川口、2022）。しかし、この鳥は最近までカワラヒワ *Chloris sinica* の亜種とされていたこともあり、国内での知名度が極めて低かった。本種の集団を適切に維持し続けるためには公的機関による保全を進めなくてはならないが、そのためには多くの国民の理解が必要である。この鳥に関する知名度の低さと普及啓発の必要性は、2020年12月に実施されたオガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップにおいても指摘されており、効果的な保全の推進のためには3年程度で全国的に認知されることが望ましいと考えられている（向・金子、2022）。そこで、この鳥の持つ進化的価値や危機的な現状を広く共有することを目的に、関係者によつ

て学会やインターネット、マスメディアなどを介した普及啓発活動が行われてきた。これらの活動はまだ端緒についたばかりではあるが、オガサワラカワラヒワの価値、現状、保全の必要性等について、一定の普及がなされたと考えられる。とはいえ、この鳥の認知度はまだ高いとは言えないため、今後も本種に関する新知見や保全活動などに関する発信を継続していくことが不可欠である。

2. これまでの活動

これまでに関係者によって行われた島外に向けての主な普及啓発活動は、下記の通りである。

2019.9.14 日本鳥学会 2019 年度大会にて自由集会「小笠原で一番ヤバイ鳥：オガサワラカワラヒワを絶滅の淵から救う」（講演：南波興之、川上和人、小田谷嘉弥、川口大朗）が開催された。本種の危機的な現状が紹介され、保全の必要性について議論された。100 名以上の参加があった。

<http://ornithology-japan.sblo.jp/article/187663960.html>

2019.10.28 オガサワラカワラヒワの保全のためには外来のネズミ駆除が必要であることを提唱する論文が発表され、プレスリリースされた。

川上和人 (2019) 小笠原諸島における攪乱の歴史と外来生物が鳥類に与える影響. 日本鳥学会誌 68: 237-262.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjo/68/2/68_237/_pdf-char/ja

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/press/2019/20191028/index.html>

2019.12.20 小説新潮 1 月号 (新潮社) に、オガサワラカワラヒワの危機的状況を紹介する解説記事「オガサワラカワラヒワ・オガサワラカワラヒワ・オガサワラカワラヒワ (オニソロジスト嘘つかない第 15 回)」（執筆：川上和人）が掲載された。

2020.5.27 オガサワラカワラヒワを独立種とすることを提唱する論文が発表され、山階鳥類研究所および森林総合研究所からプレスリリースされた。

Saitoh T, Kawakami K, Red'kin YA, Nishiumi I, Kim CH, Kryukov AP (2020) Cryptic speciation of the Oriental greenfinch *Chloris sinica* on oceanic islands. *Zoological Science* 37: 280-294.

<https://bioone.org/journals/zoological-science/volume-37/issue-3/zs190111/Cryptic-Speciation-of-the-Oriental-Greenfinch-Chloris-sinica-on-Oceanic/10.2108/zs190111.full>

<http://yamashina.or.jp/blog/2020/05/distinct-ogasawara-gf/>

2020.7.16 BIRDER 8月号(文一総合出版)に、解説記事「日本の固有種が一種増える!? [小笠原諸島で独自の進化を遂げたオガサワラカワラヒワ(前編)]」(執筆:齋藤武馬)が掲載された。

<https://www.bun-ichi.co.jp/tabid/57/pdid/17545-202008/Default.aspx>

2020.7.20 小説新潮 8月号(新潮社)に、オガサワラカワラヒワの固有性に関する解説記事「そこにしかない(オニソロジスト嘘つかない第22回)」(執筆:川上和人)が掲載された。

2020.8.17 BIRDER 9月号(文一総合出版)に、解説記事「日本の固有種が一種増える!? [小笠原諸島で独自の進化を遂げたオガサワラカワラヒワ(後編)]」(執筆:齋藤武馬)が掲載された。

<https://www.bun-ichi.co.jp/tabid/57/pdid/17545-202009/Default.aspx>

2020.11.2 日本自然保護協会のニュースレターにワークショップの専門家ミーティングを紹介する記事が掲載された。

<https://www.nacsj.or.jp/2020/11/22575/>

2020.11.4 ワークショップの公式ウェブサイト「オガサワラカワラヒワ―絶滅阻止限界点への挑戦」が公開された。

<https://ogasawara-kawarahiwa.jimdofree.com>

2020.11.4 ワークショップの公式 Twitter アカウントが開設された。

<https://twitter.com/OgaraHiwa>

2020.11.4 youtube にて一般向け講演会やオガサワラカワラヒワの動画などを配信するオガサワラカワラヒワ WS 公式動画配信サイト「小笠原くざいもんチャンネル」が開設された。

<https://www.youtube.com/channel/UC1TA4qFmUvgdm8SBi8AUQfA>

2020.11.7 ジャパンバードフェスティバル 2020 オンラインイベント 山階鳥研見にレクチャー12 オンライン講演会として「日本の固有種が一種増える?! -オガサワラカワラヒワは別種なのか?その分類と保全を考える-」(講師:齋藤武馬)がライブ配信された。

2020.11.17 ワークショップのマスコット「マッコクざいもん」が公開された（右図）。



2020.12.15 WWF ジャパンのウェブサイトにはワークショップ開催に関する記事が掲載された。
<https://www.wwf.or.jp/staffblog/diary/4498.html>

2020.12 日本女性獣医師の会会報「JWVA News Letter」（2020年初冬号）に解説記事「小笠原の自然保護の現状と絶滅寸前の固有フィンチ」（執筆：川口大朗）が掲載された。

2021.1.14 中学生向け情報誌「Success15 2021年2号」（グローバル教育出版）から取材を受け（対応：川上和人）、オガサワラカワラヒワの現状と保全について紹介された。

2021.1.17 一般向けに、オガサワラカワラヒワの現状とワークショップの結果に関する講演会「オガサワラカワラヒワ 全部わかっちゃう！」がオンライン開催された（主催：オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ実行委員会）。また、18日には講演会の内容がyoutube アーカイブとして公開された。
<https://ogasawara-kawarahiwa.jimdofree.com/ワークショップ/>
<https://youtu.be/8IQ0JHq3jmU>

2021.2.14 ワークショップにて発足したオガサワラカワラヒワ保全のためのグループ「オガヒワの会」のウェブサイトが公開された。
<https://ogahiwanokai.jimdofree.com>

2021.2.18 日本鳥学会が日本鳥類目録第8版に掲載予定のリストを公表し、カワラヒワの亜種とされていたオガサワラカワラヒワを、独立種オガサワラヒワ *Chloris kittlitzi* に変更することが提案された。
http://ornithology.jp/iinkai/mokuroku/docs/pbc1_list_20210218.xlsx

2021.2.22 朝日新聞夕刊に記事「オガサワラカワラヒワ、絶滅から救え！」が掲載された。

2021.3 オガヒワの会がアウトドア用品会社モンベルのモンベルクラブ・サポートカードの対象団体に登録された。
<https://club.montbell.jp/aboutcard/other/>

2021.3.25 野生動物救護獣医師協会機関誌「WRV Newsletter 116号」に解説記事「オガサワラカワラヒワのいなくなる日」(執筆:川上和人・川口大朗)が掲載された。

2021.4.1 東京動物園協会機関誌「どうぶつと動物園春号」に解説記事「無名の希少種オガサワラカワラヒワの憂鬱」(執筆:川上和人・川口大朗)が掲載された。

2021.4.1 日本野鳥の会機関誌「野鳥3/4月号」に特集記事「オガサワラカワラヒワに迫る絶滅の危機」(執筆:川口大朗・川上和人・鈴木 創)が掲載された。

2021.5 小笠原ホエールウォッチング協会機関紙「Megaptera vol.86」に解説記事「オガサワラカワラヒワ:日本で最も絶滅の危機にある固有の鳥」(執筆:川口大朗)が掲載された。

2021.5.26 アイランズケアによりクラウドファンディング「日本で最も絶滅の危機にある固有の鳥、オガサワラカワラヒワを後世に残したい!」が開始された。その後、多くの協力者により目標額が達成された。

<https://www.islandscare.org/crowdfunding/>

2021.5.26 2020年にZoological Scienceに発表されたオガサワラカワラヒワの分類に関する論文(Saitoh *et al.*, 2020)が、日本動物学会論文賞2021年度Zoological Science Award受賞論文に選考された。

<https://www.zoology.or.jp/news/zoological-science-award-2021>

2021.6.15 山階鳥類研究所とオガヒワの会が協力し、サントリー世界愛鳥基金の助成を受けて、「オガサワラカワラヒワの普及啓発パンフレット」が作成され、ウェブサイトからpdfのダウンロードも可能となった。

http://www.yamashina.or.jp/hp/kenkyu_chosa/ogasawara_kawarahiwa.html

2021.6.25 東京都立大学小笠原研究委員会の発行する小笠原研究年報にワークショップの報告記事が掲載された。

川口 大朗・鈴木 創・向 哲嗣・堀越 和夫・川上 和人・佐々木 哲朗・宮城 雅司・両角 健太・金子 隆・飴田 洋祐 (2021) オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ. 小笠原研究年報 44: 55-78.

2021.7.1 雑誌「チルチンぴと108号」に解説記事「地味で無名な日本代表「オガサワラカワラヒワ」」(執筆:川口大朗)が掲載された。

2021.7.10 東京都獣医師会機関誌「TOJU ジャーナル2021年7月号」に解説記事「絶滅寸前のオガサワラカワラヒワを守る」(執筆:堀越和夫・川口大朗・佐々木哲朗)が掲載された。

2021.7.17~10.31 神奈川県立生命の星・地球博物館にて、特別展「絶海の自然-硫黄列島をゆく-」が開催され、オガサワラカワラヒワの現状と保全策について紹介された。

2021.7.21~ 父島の小笠原ビジターセンターにて、夏の特別展「オガサワラカワラヒワ展」(主催:ポニインタープリター協会・東京都公園協会)が開催された。

2021.9.19 日本鳥学会2021年度大会にて、口頭発表「カワラヒワの隠蔽種の種分化-独立種オガサワラカワラヒワの発見-」(齋藤武馬・川上和人・西海 功・Red'kin YA・Kim CH・Kryukov AP)が講演された。

2021.10.23 神奈川県立生命の星・地球博物館の特別展「絶海の自然-硫黄列島をゆく-」の関連イベントとしてオンライン講演会が開催され(主催:神奈川県立生命の星・地球博物館、小笠原自然文化研究所)、オガサワラカワラヒワの現状と保全策について紹介された。また、25日にはオンライン講演会の内容がyoutube アーカイブとして公開された。

<https://youtu.be/daL7EOhoKYA>

2021.11.1~ 上野動物園の「日本の鳥I」観覧通路にオガヒワの会と山階鳥類研究所が共同で制作したオガサワラカワラヒワの普及啓発ポスターが展示された。

3. 引用文献

川上 和人・川口 大朗 (2022) オガサワラカワラヒワの生態と個体群の現状. 小笠原研究 48: 3-15.

向 哲嗣・金子 隆 (2022) 共生社会(S)ワーキンググループ報告. 小笠原研究 48: 115-139.

SUMMARY

Awareness-raising activities about the Ogasawara Greenfinch to the outside of the
Ogasawara Islands

Kazuto KAWAKAMI¹*

1. Forestry and Forest Products Research Institute, 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687, Japan.

* kazzto@ffpri.affrc.go.jp (author for correspondence)

The Ogasawara Greenfinch is endemic to the Ogasawara Islands, which has been decreasing dramatically in recent years, and is threatened with extinction. For its conservation, it is necessary to gain the understanding of the general public, but this species is not well known. Therefore, with the aim of sharing the value of this bird and its current status with the public, awareness-raising activities have been conducted through academic societies, the internet, and mass media. As a result of those, the awareness of this species has been increasing compared to the past. However, it is still low, and it is essential to continue these activities in the future.

Key words

Awareness, *Chloris kittlitzi*, Conservation, Mass media

